


No. 114		SONG FOR THE PEOPLE BY THE PEOPLE
発行日 2020.10.11		編集 千松 幸夫
発行：ばとこいあ神戸事務局		
事務局： 尼崎市築地5丁目3-12 千松 宛 Tel：090-8216-1243	E-mail： batokoia-kobe @imail.plala.or.jp ホームページ： http://www9.plala.or.jp/batokoia/	

安倍が辞めた

でも病気で、

皆の声で辞めさせられなかったのは・・・

2020年8月28日、安倍晋三は「潰瘍性大腸炎」で7年8ヶ月の安倍政権に終止符をうった。国民に何も訴えることなく、市井の人々の小さな声も聴こうともせず、お友達と大企業だけを優遇し、「私や妻は一切関わっていない。もし関わっていたら間違いなく、首相も国会議員も辞任するということをはっきり申し上げる」と発言したり(2017年2月17日)、それによって公文書を破棄したり捏造したり、「桜を見る会」をし二日したり、街頭演説でアベボンに反対する人たちに「こんな人たちに負けるわけにいかない」と叫んで警察権力に言論弾圧させてみたり、「閣議決定」を国会決議より重要にしてみたり、とまだまだこの7年8ヶ月の悪行は数えきれない。何十年たっても、市井の声を顧みようとしないから病気が無かったら、あのアドルフ・ヒトラーみたいな『独裁者』になってたんやろうな。爺さんの岸伸介や大叔父の佐藤栄作より質が悪く、60歳を過ぎても何も勉強してなくてガキのまま年老いてきたんやろう。

次は菅義偉(すが よしひで)やて・・・

2020年9月14日、自民党総裁選挙(毎年党費を払っている人を除外した形で)が行われ、数10年前の「派閥政治」が展開され、菅義偉(すが よしひで)が新総裁に選ばれ、同月16日に支障指名を受け、第99代総理大臣に就任した。(ま、新しい「立憲民主党」も党員投票はしなかったみたいやし・・・。)

アベボンの政策を継承すると言ってるので、この7年8ヶ月と何ら変わりなく、お友達と大企業優先で、貧しい人たちは「『自助、共助、公助』で政府は何もしないよ」が続くんやろうな。11月のアメリカ大統領選挙ではとランプも怪しいけど・・・。

アベボンは自分の信念で「タカ派」やった訳ではなく、いろいろな人に吹き込まれた考え方を無節操に取り入れた「タカ派」や。菅はアベボンよりも腹の座った「タカ派」かもしれんぞ。

これからも、くれぐれも用心・注意せなあかんよ！

2020年8月9日（日）

神戸学生青年センター・スタジオ

参加者名 5 名（表現者 3 組 3 名）



👉 中山 けんいちさん



👉 宮崎 隆(根津実)さん



👉 矢谷 トモヨシさん



Photo by Yukio Senmatsu

タシキ又鬼騒動記

前編



タシキ又での戦いと言われる合戦に辛うじて勝利した孫八は重大な決断をした。家臣と領民たちを全て集めると彼らを前にして言った。「皆の者よく聞け！この度の合戦は大変にご苦労であった。双方ともに甚大な被害が出たが辛うじてわが軍が勝利した。死者は丁寧に葬り北見(にしみ)方の捕虜と死者はすぐに北見の家族の元に返してやれ。」「そこでだ！長年グラルの背後を脅かしていた北見軍も滅んだ今、このグラルを最早驚かす敵もいなくなった。」

「殿おめでとうございます。」「それにしても今度の戦はきつかったな。」「ヤレヤレでございまするな。」家臣たちがそれぞれに口にする。

孫八が言葉を続けた。「そこでだ！この城の周りの沼を埋め立てて田畑に変えようと思う。速水川を深く掘り川幅を広げて氾濫を防ぎ、守りの要としていたこの沼を埋めるのだ。戦に備えるのも大事だがそれよりも大事な事はそなたたちの石高を増やして暮らしぶりを良くすることだ。」家臣たちに動揺が走る。みんなこの沼や速水川の戦略上の重要性はよく分かっている。「殿それはあまりにも無謀でございます。」「それではこの城が丸裸同然になります。」「私は反対でございます。」「家臣たちは次々と自分の思いを口にする。皆の声が出終わったところに孫八が言った。「な～に心配するな。お前たちは今まで以上に武芸に励むのだ。」孫八はニヤリとして言う。「それは無論の事でございます。」「家臣の一人が言う。

「石高が増えれば家臣も増やせる。お前たちがこの城の石垣であり沼なのだ。」家臣たちは深く頭を下げた。「この工事は大変な苦労を伴うであろう。何年も掛かるかも知れぬがやり遂げるのだ。この工事をやり遂げたら300町歩の田畑を手にする事が出来るぞ。」300町歩と聞いて皆がどよめいた。

「小作のわし等も地主になれるかな？」「夢みたいな話だな」「殿やりましょう。どんな難工事でもやり遂げましょう」「殿、地主になれたら農のところにも嫁さん来てくれるかな？」「お前の器量にあ無理だな。」という声が返ってきて皆がどっと笑った。

「トマイカナイお前は人夫頭となり人夫の指揮を執れ！今度は身体より頭を使えよ。」孫八が言う。

「トマイカナイ様の頭の中は筋肉で出来ておるからのう。」と誰かが言うと又皆がドッと笑った。これには孫八も「上手い事を言うのう」と大笑いした。

「川當お前は川堀の指揮じゃ。向田お前は女子衆をまとめて土を運ぶオーダ一作りじゃ。福屋お前は杭を作る木を準備するのだ。宮内お前は縄をなえ、数千尋となうのじゃぞ。」とそれぞれに次から次へと仕事を割り当てた。

「与那原、小禄、国吉お前たち三人はすぐに琉球に渡りこの灌漑工事に必要な腕利きの工人を十数人ばかり連れてくるのだ。」「ハッハッカしこまりました。」三人は深く頭を下げると館を後にして内喜名の浜へと急ぎ琉球へ渡った。琉球で名打つての名人一石積みの名人、河堀りの名人、地下水脈を読む名人、人夫を⑦束ねる名人、風水を読む名人等を十数人ばかり引き連れて帰ってきた。グラルで大掛かりな灌漑工事が始まると聞いた島中の人達が人夫として働きたいと集まってきた。

中にはグラルの領民になりたいと言う人も何人も居て孫八を喜ばせ困らせた。こうしてグラル城の周りの大灌漑工事が始まった。グラルの地形が山に囲まれた盆地だと言うこともあり地下水があちこちに流れており難航した。琉球からきた地下水脈を読む名人我那覇もしばしば考え込んだ。「こんな事は初めてだ。こんな小さな島に良くこれだけの地下水脈が流れているとは。盆地の地形と言ってもそれ程高い山があるので無し。それにしてもこの地の利を上手く活かしての城造り、孫八殿と言うお方見事なもんよのう。」

工事が始まり人が集まると人夫の使う草鞋を売りに来る者、笠を売りに来る者、飯を売る者と人夫目当てに商売する者も集まり賑わいを呈して来た。男衆の集まる場所には女衆が集まり、女衆が集まる所には男衆が集まって来るものなのである。工事が順調に進んでいるかに見え始めた頃、不吉な噂が流れ始めた。

「どうも最近タシキ又を通る度に怪しげな雰囲気を感じるのだが」「なんか分かんが体がゾクゾクとするのよ」「何？お前さん方もそんな目にあってるのか？」「あそこを通る度に身震いと言うかヘンな寒気がしてたまらんのじゃ。」そんな声からやがて「儂はタベ見たぞ？目が異様にギラギラした鬼のようじゃったわ。」「それならわしも見たぞ。あれは確かに鬼の形をしておった。」「儂も見たぞ。あれはとてこの世のものとは思えなかった。」「それは怖い話よのう。」「何んとかならんのか？」という声が日に日に高まってきた「あれはもしかしたらこの前の戦で死んでいった者たちの霊じゃないか？」「余りにも酷い戦じゃったからな」「戦で亡くなった兵たちの霊がまだこの世に未練があるのだ。このままじゃ可哀そうすぎる孫八様に相談してみよう。」「そうしよう。孫八様に相談したら何か良い知恵を出してくれるかもしれぬ。」何人かの村人の代表が孫八に相談しに館へやって来た。「孫八様、最近の巷の噂をお聞き及びでございますか？」「はて何の事かな？」村人たちの不安と恐怖に満ちた顔いろを見ながら孫八は答えた。

「孫八様、こここのところタシキ又の辻にどうも怪しい物の怪が出るとの事。」「何やら鬼に似た形相をしていて通る人々を脅かしているとの事。」「あれはこの前の戦で死んでいった兵たちの怨念が鬼に姿を変えたのでは無いかとの事。」「とても恐ろしゅうございます。」「おっかなくて最近ではあの辻は通れなくて回り道をしているさまです。」「どうしても通らざるを得ぬものは、馬に乗っている者は馬から降り、歩いている者は、草鞋を脱ぎそれを胸に抱き『ブリ、シャブラントウ、トウチタボリヨ、トウチタボリヨ（迷惑をおかけしないので、どうか通してください）』とお経のように唱え及び腰で、歩いている始末です。儂等になんか被害が出る前に何とかしてやって下さい。」村人達は口々に訴えた。

「そうかそんなことが起きているのか？」「それが死んでいった兵たちの霊だとしたら余りにも哀れな話じゃ。何としても成仏させてやらねばならんな。」孫八は答えた。「遺体はねんごろに弔ったのであろうの？」孫八は尋ねた。「それはもうこちらの兵はちゃんと葬式を出してお坊様も呼んで読経して送りました。」「墓もちゃんと造り丁寧に埋葬してあります。」「北見の兵はちゃんと北見の家族の元に返しております。」。そうかそれでも物の怪となりこの世をさまよっているのか。」「不憫な奴らじゃ。なんとかして成仏させねばならぬのう。」孫八は祠を造り死んでいった兵たちの霊を祀り神として称えた。

しかしその甲斐もなく鬼と化した例はタシキ又の辻を通る人々を襲いだしてきた。命乞いする村人たちを棍棒で打ち殺し腹わたを貪り食らった。タシキ又を通る人がいなくなると島中を歩き廻り辻々で人々を襲い始めた。それは決まって月のない真っ暗な晩のことであった。「孫八様どうか鬼を退治して下さい。」「またタベも一人食

い殺されてしまいました。」「このままでは島の人全員が食い殺されていなくなってしまう。」「もうあの鬼を倒せるのは孫八様しか居りません。」「どうかお願いします。」「武術の達人と言われた武蔵様も小次郎様も簡単に打ち負かされてしまいました。」「もはや頼れるのは孫八様だけです。」「どうかお願いします。鬼を退治して下さい。」「最近では帰りに鬼に出会うのを恐れて人夫の数も減ってきて困っております。」「工事にも支障が出ております。」島の人々が毎日のように必死になって孫八に頼み込んだ。「そうか分かった。いつまでも浮かばれぬ哀れな例を不憫とばかり思っ

てはいられんな。」孫八は鬼を見たという者たちを集めると、鬼の大きさや武器やら出る時刻やら動きについて尋ねた。「頭に2本の角が生えた鬼です。」「あれはこの世の者とは思えません。」「儂は新月の晩に出会いました。」「儂も月のない夜じゃったです。」「鬼は分かった。大きさは7,8尺もあるのか？それはデカいな。」「重さが80貫以上はありそうだと？まさに化け物だな。」「動きも俊敏で御座いました。」一人が襲われた時のことを思い出したのか震えながら答えた。「その化け物は新月の晩にしか現れないのか？余程の醜さ、異様なさまを知ってのことかな？」孫八が大笑いすると集まった者たちは「聞こえたらどうするんです！人差し指を口に当ててシイッ」とばかりに息を殺し辺りを見回すと身をすくめた。

さてその月の新月の晩孫八は鬼を求めてタシキ又の辻で鬼を待ってみたが鬼は現れなかった。どうもアーニ マガイと呼ばれる所に現れて人を襲ったようだ。次の新月の晩も孫八はあっちこっちの辻で鬼を待ち受けたが出くわす事は出来なかった。その間にも鬼に襲われた死者の数は増えるばかりである。が「大体あいつの行動様式は読めてきだぞ。」とニヤリとした。そして鬼を求めて三月目の新月の晩孫八はタシキ又の辻へと向かった。真っ暗な中、孫八が傍らの石に腰を掛けて鬼の現れるのを待っているとにわかに空が曇り一陣の風が吹き周囲の木々をざわめかした。

何やら人の気配を感じた。孫八は小さくヨシッと気合を入れて立ち上がり持っていた槍を身構えた。暗がりの中にも相手の異様さが見て取れた。浮かぶ身の丈は7,8尺ばかりか？子牛のような角が2本生えている。筋肉隆々で体つきも牛みたいだ。(こやつ図体がでっかい割に動きは俊敏そうだな？)孫八は眩く。手には重さが何十貫もありそうな鉄の棍棒を持っている(村人たちの言っていた通りだな)。夜目にもすっかり慣れた孫八の目の前に鬼はすっかり姿形を現した。ぼうぼうの髪の毛は縮れていた。針金みたいに固そうだ。全身毛むくじゃらだ。上半身裸で腰には皮で出来た蓑みたいなのをまとっている。耳には金の輪っかの飾りを付け腕には鉄の輪っかを付けて腕の大きさを誇示しているかのようだ。口は耳まで裂けてはいなかった。牙は生えている。足元は裸足だ。足首にも鉄の輪っかを付けている。爪は鋭く尖っている。わしが子供の頃見た鬼の画とは若干は違うな。こいつらも種族があるのか？金の耳輪と中々おしゃれな奴だな。こやつは何歳ぐらいだろうな？オッサンにも見えるしまだ若くも見えるな？脂の年は分からん——。孫八の心はいつの間にか持ち前の好奇心が占めていた。何とか子分に出来んもんかな？こいつらの世界を知りたいもんだ。

1羽の夜鳥が鋭い鳴き声を上げ静粛を切り裂いた。鬼も孫八の身体から発せられる気を感じ、こいつは今までの相手とは違うなと感じていた。二人は互いに向き合い静かに構えた。

孫八は槍を何度も鬼めがけて鋭く突きさすが軽くかわされ空を斬るばかりだ。何度目かの槍が鬼に向かって来た時鬼が槍を払うと槍は折れてしまった。「お主中々のもんよのう。ここまで儂の槍を避けるばかりか折ってしまうとはのう。お主が初めてじゃ。」孫八が言う。「儂に勝負を挑んで来ただけはあるのう。中々のもんじゃ。それにしてもお主夜目が利くのか？」鬼が聞いた。

「お主人間の言葉を話せるのか？お前が月の無い新月の晩にばかり人を襲うので、夜目も利くように鍛錬したわ。それにしてもお主何者なのだ」孫八が聞く。「わしら恨みを持って死んでいった者たちの霊が集まりこうして鬼の形を成しておる。人間の言葉を解することなどたやすい事。お前の得意の槍は折れてしまったぞ。次は何で闘うつもりだ。諦めて儂に喰われるか？」鬼が言った。「まだまだよ。勝負はこれからだ。儂の名は孫八じゃ。冥途の土産に聞かせてやろう。儂にやられたら閻魔様もお前を天国に上げてやろうぞ。」孫八は高笑いをした。「孫八か！良い名じゃ。儂の名は鬼八じゃ。似たような名前よのう。嬉しいわ。八つ裂きの八だな。名の通り八つ裂きにしてくれようぞ。閻魔大王は儂の古くからの知り合いじゃ。お前を地獄の窯で歓迎するよう頼んでおくわ。」鬼八もまた高笑いをした。

「さあ来い孫八とやら。儂は腹が空いておる。さっさとお前を打ち殺して食ってやろうではないか！」鬼八は棍棒を持ち上げて振り回した。風を切る鋭い音がビュンビュンと辺りに響く。棍棒が風車のように廻り最早鬼八の姿は見えない。「鬼八お前と闘うにはこの刀がピッタリだ。この刀が何であろうか分かっておろうの！」孫八は刀を鞘から抜き上段に構えた。「まさか、もしかしてその刀は童子切りか？」「いかにもこれは源頼光様が大江山の酒吞童子の首をはねた刀一童子切りだ。これで切られればお前も本望であろう。」「その刀はわしら鬼族に取ってはいわば敵の刀。ここで会ったが百年目じゃ。へし折ってくれるわ。」孫八と鬼八は何度も相手に打ち込んで離れ、離れては打ち込み、打ち込んでかわし離れた。もう幾時ばかりが過ぎたであろうか？辺りはうっすらと白じ始めている。鬼八が撃ち込んだその瞬間一番鶏が時を告げた。その一番鶏の声を聞いた鬼八は一瞬ばかり気を逸らした。打ち下ろされた棍棒は僅かばかり狙いを逸らした

孫八はその棍棒を体でかわすと真っ二つにした。かわされた弾みで鬼八は倒れてしまった。孫八は童子切りを鬼八の首に当てた。「これで勝負はついたな。動くなよ。動くとも首が地面に転がることになるぞ。」「何をためらっておる。早よう首を撥ねぬか？人間に負けたとあつては最早生きてはゆけん。儂ら鬼族には鬼族の誇りがあるのじゃ。」「鬼八貴様も鬼族の中でも中々のもんであろう！こうして刀を相まみえれば判るわ。」孫八は鬼八の首に刀をさらに強く押し当て軽く引いた。鬼八の首に痛みが走り血が滲み出てきた。人間と同じ赤色の血であった。「鬼八お前にも痛みも死の恐怖の念もあるであろう。」さらに孫八は刀を押し当て引いた。鬼八の首の痛みは激痛に変わり血もおびただしく流れ出した。「さっさと殺すのだ。何時まで生き恥晒させるのだ。目的は何だ？」「鬼八、今ならまだ間に合うぞ。どうだ儂の家来にならぬか？貴様のような武の腕のたつ奴を殺したくはないのだ。」鬼八は答えない。「鬼八、今ならまだ間に合うぞ。貴様のような武の腕のたつ奴を殺したくはないのだ。二度も言わせるな。貴様と一緒に武芸に励めばもっと強くなれる。儂はもっと強くなりたいのだ。共に武芸の腕を磨きまた勝負をすればよいのでは無いか！こたびはお主が一番鶏の声に気を取られて偶然に儂が勝っただけじゃ。儂もこんな勝ち方では納得できぬわ。」鬼八は少しずつ薄れかけてゆく意識の中で孫八の誠意を感じ始めた。またこの男ともう一回勝負をしたいと思った。「分かった。孫八殿お主の家来になろう。ただし一年後にはまた勝負をすることが約束じゃ。分かったな！この約束をたがえるでないぞ。」これだけ言うと鬼八は気を遠くにした。孫八はすぐさま傷口を酒で洗うと血止めの薬を塗り包帯を巻いた。孫八の的確な素早い治療と鬼八の尋常ならざる体力で三日間寝込んだだけで鬼八はすっかり体力を取り戻した。

(次号に続く)

『ばとこいあ神戸』こもごも

『ばとこいあ神戸』の歴史 その27

千松 幸夫

【第2部】第Ⅱ期『ばとこいあ神戸』

【第19章】第44回 ～ 第47回

第44回は2008年4月12日(土)。場所は神戸学生青年センター・スタジオ。参加者12名(表現者8組8名)。うすくもり。

この会はほとんど印象に残っていない。ただ、隆二郎&風来で Love,Peace & Freedom を途中まで唄ったことだ。

「小林隆二郎が台湾の平和音楽祭に呼ばれて歌うんだってね」。

「えっ なんで」

「音楽祭の主催者からの指名だそうだよ」

「へ～えそうなん、けど隆二郎はヒット曲も無いし、有名でもないのになんで」

「そうでもないよ、隆二郎はけっこう有名人やで」

「言うても、一部のあいだでやろ」

「その一部のあいだが重要なんと違うか」

「どう言う意味や」

「隆二郎は1970年頃から歌い続けてて、その歌の内容はベトナム反戦や三里塚、沖縄等を含む反権力が主題や、その姿勢は今も変わってない」

「それで」

「つまりやね、最初から売れる歌なんて眼中になくて、問題の地に出向いて、現状を見てそこの人達から話を聞き、時には闘争に参加しながら自分が言いたいこと、考え、思いを詩に書いて曲をつけ歌っていたんや。その隆二郎を片桐ユズルさんは吟遊詩人と称したんや」

「ほんなら隆二郎は活動家ちゃうのん」

「そやない隆二郎はれっきとしたシンガーや、それもフォークソングシンガーなんや」

「フォークシンガーとフォークソングシンガーは違うんか」

「この、ばとこいあ神戸のテーマでもあるフォークの意味は素人、普通の人、非専門家と言う意味なんや、そんな人たちが自分のまわり、日常での思いや怒り、悲しみ、矛盾なんかを、自分の言葉で表現している歌い手をフォークソングシンガーというんや」

「隆二郎がそうやとして、今度の台湾の平和音楽祭出演依頼とどんな関係があるんや」

「つまりや、隆二郎はフォークソングシンガーとしてと、それに伴う作詞過程の行動とが高い評価されていて、彼の想いや考えを彼の歌を通じて聞きたいと言うことで台湾から呼ばれたんや」

「そんな歌い手ほかにいてる？」

「他にもいると思うで、ぼくらが知らんだけや、それに政治的要素がからんだら、マスコミでは取り上げへんからな」
 「ある意味ではすごいことなんやね」
 「そうかもしれんけど、隆二郎はそうは思ってへんのん違う、彼は彼の唄う歌も他の人の歌も同じで、特別な人の歌ではないことやと言いたいんや」
 「そうか、俺らは表現の自由という言葉は知っているのに、いつの間にか自分自身で自主規制してたんやね」
 「そうゆう意味からも『ばとこいあ』の空間はおもしろいということや」
 「最後に今回は、隆二郎のサポートとして風来（神田&矢谷）の二人も参加して唄うたんや」
 「まあ、何はともあれ彼等の報告と歌を聞こうや」

(ばとこいあ通信 第43号より)



☞ 中嶋 初恵さん

中野 誠三さん ☞



☞ 伊藤 敦さん

小林 正弥さん ☞



☞ 永井 ますみさん

隆二郎 ☞

& 風来 ☞



☞ 隆二郎

☞ 神田 修作さん



矢谷 トモヨシさん ☞





👉 風来



第45回は2008年6月21日(土)。場所は神戸学生青年センター・スタジオ。参加者11名(表現者8組8名)。くもり一時雨。

3年前の春だったか、大手新聞の文化欄の片隅に「関西フォークを愛する歌人たちよ来たれ」と掲載された。主催は鉄人マーケットの経営者でフォークシンガーの山田ほおぼう氏だ。

隆二郎が目ざとくそれを見つけ、ほおぼう氏に会い、会への思いを聞き、賛同し参加協力を申し出た。その時点で山田氏の「ウタカイ」とわが「ばとこいあ神戸」が互いに表現の場を共有していた。歌い表現出来る場が一つでも多くあると言うことは、いいことで私たち自前の文化を共有でき、発展できるきっかけになるであろう、素晴らしく期待できる瞬間だった。

「ウタカイ」は毎月の最後の金曜日に開催されていた。

しかし残念なことに「ウタカイ」は3年で消えてしまった。

「ウタカイ」に参加した歌い手たちよ、考え模索してほしい。

ほおぼう氏は自分の力不足と言っているが、はたしてそれだけだろうか？

歌い手の側にもその責任の一部があったのではないだろうか。会を維持、継続すると言うことは大変な時間と労力と資金を必要とするのです。歌い手の側は会のことまで考えてはいないはず、会の運営はほおぼう氏にまかせきり、彼にも仕事や生活のことが眼前に明確に存在します。わが「ばとこいあ神戸」には事務局として千松氏が事務、運営を専門に引き受け受けてくれているので長期にわたり存続できているのです。そのことを歌い手や他の表現者たちも考えてほしいのです。

ようするにみんなで場を共有することができるか否かが重要かつ大切なことなのではないでしょうか。

ほおぼうさん、長期にわたりご苦労さんです、ゆっくり休んでください。

「ウタカイ」に参加していた歌い手のみんな、もし場のことや歌のことを思い考えるなら「ばとこいあ神戸」に来て、唄って欲しい。そして歌う場を維持し続けることで「ウタカイ」の再現を待とうではないか。

そして場に関しての想いを事務局の千松氏と語り合うのもいいでしょう。

表現の場を神戸でもうこれ以上：消すのは」堪えられない。

これからも地道に息長く場を維持し続けていくことを、ともに「あいことば」として共有することで表現し続けませんか。

「ウタカイ」の終焉を機に「場」のことを考え思い、維持、共有することの必要性について、歌い手やその他の表現者の方々に提案してみます。

(ばとこいあ通信 第43号より)



☞ 澄田 和義さん

隆二郎 ☞

神田 修作さん ☞



隆二郎 ☞



☞ 飽浦 敏さん

土山 恵子さん ☞



☞ 神田 修作さん

伊藤 敦さん ☞



☞ 中野 誠三さん

永井 ますみさん ☞



第46回は2008年8月2日(土)。場所は神戸学生青年センター・スタジオ。参加者10名(表現者9組9名)。くもり時々晴れ。

蒋介石、蔣経国親子2代にわたった恐怖政治の時代が台湾であった。

そこでは愛すべき親子、兄弟、姉妹、恋人、孫たちが、いわれのない政治犯という罪をきせられ、台東の沖合にある緑島の収容所に送られ、秘密裏にあらゆる拷問や死刑が数多く繰り返された。

台湾の人権活動家、曹欽榮さんが制作されたその時代の証言DVD「台湾白色恐怖口述映像記録・影方1 青春祭」の中のシーンでライブハウスで若者が歌っている場面に引き付けられた小林隆二郎は直ぐに、曹さんにその曲名と内容、グループ名が知りたいとメールを送った。直ぐに返事は返り、曲名は「緑島小夜曲」で内容は「恐怖政治時代愛すべき人が強制的に緑島に送られ、その人の無事を思い歌われ、いつしか多くの人たちに歌い継がれた歌であり、歌っているのは緑島に住むアマチュアグループだという。しかし当時の国民党政権はこの歌を禁歌とし、歌った者まで政治犯の対象とした。世の中が大きく変化した現在でも多くのミュージシャンや民衆に愛され、その時代の陰影を映す歌として、平和な世を思い、願い歌い継がれている。

緑島小夜曲の歌詞と訳詩を紹介しよう

這綠島像一隻船在月夜裏搖呀搖

綠島は小舟のように月夜に揺れる

姑娘喲你也在我的心坎裏飄呀飄

クーニャン(娘)よ君も私の胸にそよいでいる

讓我的歌聲隨那微風吹開了你的窗簾

私の歌声をそよ風が君の窓辺に運んでいる

讓我的表情隨那流水不斷的向你傾訴

流れる水は私の想い届ける君のもとへ

椰子樹的長影掩不住我的情意

ヤシの葉影でも隠せない私の思い

明媚的月光更照亮了我的心

清らかな月明かりは私の胸を照らす

這綠島的夜已經這樣沈靜

綠島の夜は静かに更けて

姑娘喲你爲什麼還是默默無語

クーニャンよなぜに今宵も語らないのだ

この歌は緑島に収容された政治犯の人が作ったという説もあるが、作者は不詳というのが定説となっている。更に収容所内でも歌われたという話も聞かないとも言われ、歌詞も台湾語ではなく北京語であり、反体制思想に直結する表現も見当たらない。

ではなぜ国民党政権は禁歌としたのか？

その当時、国民党政権は恐怖政治をなりふり構わず国民に押し付け、弾圧につぐ弾圧を加え続けた。

しかし権力者たちの不安と猜疑心は民衆が団結することを極端に恐れ、そのような可能性が生まれる芽をことごとく摘み取ろうとしていたのではないだろうか。そのための一つとして標的にされたのがこの歌であったと思われる。更には「緑島」という島の名前と、もの悲しく哀愁が込められた詩とメロディーをも恐れたのではないだろうか。

「緑島小夜曲」はこのような悲しい時代が生んだ歌だ。

プロテストソングには、その歌詞の内容がストレートに批判を込めたものもあれば、この歌のように哀愁を込めた優しい歌詞であっても人々に愛され、人々が寄り添い結集する力を持っている歌も、プロテストソングと言える。

たかが歌、されど歌なのだ。

私たちもこんな歌があることと知ることによって時代と歴史の見識を深めてみることも時にはいいと思うのですが・・・・・・。

参考までに、この「緑島小夜曲」は著作権の問題で台湾で大きな問題になりました、その関係で CD として発売されているものはほとんどありません。

(ばとこいあ通信 第44号より)



☞ 中嶋 初恵さん

福岡 キコさん ☞



☞ 澄田 和義さん

池田 則彦さん ☞



☞ 伊藤 敦さん

中野 誠三さん ☞





☞ 隆二郎

隆二郎 ☞

矢谷 トモヨシさん ☞

☞ 永井 ますみさん

矢谷 トモヨシさん ☞



この直前に隆二郎が久しぶりに台湾へ行った。リン・マイルス主催の「和平音楽祭(Peace Festival)」に参加するために。

45回と46回の「ばとこいあ通信」に与那国での台湾人救出と初めての台湾訪問についての文章を書いていた。

この年(2008年)の暮にも台湾・高雄の「台湾人権国際会議」に出席するために再度台湾を訪れている。

Photo by Yukio Senmatsu

隆二郎 歌集 -16

『金芝河支援コンサート』や『11.22 救援コンサート』をやった後に作った歌だろう。一度も聞いたことはないが・・・。

大阪市交通局へ入り、大学を中退した後「三里塚」で戸村一作さんから『沖縄を見ろ』と言われてから沖縄に通い始めた。『金芝河支援コンサート』位から韓国の問題にも関心を持ち始めた。このころの韓国は「朴正熙(パクチョンヒ)」政権時代で、僕らも関心があった。その後も沖縄に関わり続け、北海道のアイヌ民族にも関心を寄せて行っていたのだろう。この曲を作ったのは「朴正熙」政権末期で改作したのとほぼ同時期に朴正熙は暗殺された。ちなみに朴槿恵(パク・クネ)は朴正熙の次女。

朴正熙 : 1961年の軍事クーデターで国家再建最高会議議長に就任し、1963年から1979年まで大統領(第5代から第9代)を務めた。彼の時代から約30年間にわたって『漢江の奇跡』と呼ばれる高度経済成長が実現されて韓国は世界最貧国の層から脱したと評価される。一方で1972年の改憲で大統領任期と重任制限を撤廃することで永久執権を図ろうとし、また民主化運動をスパイ操作・司法殺人などで弾圧したとして「独裁者」との批判的評価も受けている。1979年に側近の金載圭によって暗殺された。

満州国陸軍軍官学校(士官学校)に志願入隊し、卒業後に成績優秀者が選抜される日本の陸軍士官学校への留学生となり、第57期生として日本式の士官教育を受ける。帰国後は満州軍第8団(連隊)副官として八路軍や対日参戦したソ連軍との戦闘に加わり、内モンゴル自治区で終戦を迎えた。第二次世界大戦後、中国の北京に設置されていた大韓民国臨時政府(朝鮮系住民による独立組織)に加わり、朝鮮半島の南北分離時は南部の大韓民国を支持して国防警備隊の大尉となった。国防警備隊が韓国国軍に再編された後も従軍を続け、朝鮮戦争終結時には陸軍大佐にまで昇進、1959年には陸軍少将に就いた。軍の将官、将校、士官らの改革派を率いてクーデターを執行し軍事政権(国家再建最高会議)を成立させた(5・16軍事クーデター)1979年に側近の金載圭によって暗殺された。

= ソウルからの叫び =

S53(1978).11.19 1980 改

詞・曲 りゅうじろう

これは今から 8(10)年も前
1970年11月13日
ソウル市内の 平和市場の前で
一人の青年が ガソリンをあびて
焼身自殺した事に始まる

彼の名は 全泰壹(チョンテイル)
平和市場の中にある
被服工場の 裁断工として
働いていた 23歳の若者
その彼が 炎の中で死んだ

彼は自分と働く仲間たちが
安い金と かこくな労働条件で
こきつかわれてる 現実を見て
仲間呼びかけ 立ち上がり
ストライキをやり 斗かった

だけど すぐにかけて
おまわり達に 追い払われ
血みどろの中で 彼は見た
おえらい奴等の 本当の顔を
そして彼は決意した 命をなげだす斗いを

炎の中で 彼は叫ぶ
勤労基準を守れと
労働時間を短く 日曜は休みにせよと
もえくずれ行く その中で

ここで聞いているみな様方よ
これは海のむこうの事だとて
知らぬが仏の 安同情で
聞いてもらおうと困るんだ
なぜなら俺たちの手も 汚れてるんだから

別にざんげしようと いたいわけじゃない
彼の叫びが 今 俺等の
着ている服から 聞こえないか
耳をすましてほしいんだ
えりのタックを見てごらん
MADE IN KORIA と書いてあるだろう

少しは安いと 買った服が
平和市場の 若者達の
命と あせと 血のしみ込んだ
ものであるのに気付いたら
少しはしくみが 見えるだろう

誰かが こんな事っていた
団結なんて しらけるよって
組合なんて ナンセンスだって
それで自由が ほしいんだって
そんなにいい国かね この国は
私の死を むだにするなど
全泰壹は 示してくれた
働く者の 団結の意義と
組合の姿は どうあるべきかを
彼の叫びは 玄界灘を越え
働く者の心の中に つきささる

たつた一にぎりの 人達だけで
資本 権力とは 斗いきれぬ
働くすべての 仲間達よ
学ぶすべての 友達よ
彼の叫びを 聞こうじゃないか

炎に包まれ 全泰壹が死んで
すでに8(10)年 の月日が流れ
彼を包んだ 炎は今
黄土の国中に 広がり
海を越え 私たちの心の中にも 火をつける

全泰壹の死を ムダにはしないと
確かめ合おうよ 今ここで
すべての不当逮捕者達が 帰りに来るその日まで
斗い続ける 確認をしよう
生きてる 俺達の責任として

今の韓国の民主化闘争の炎が燃え上がるずっと昔、一人の若者が自らの
命を炎にかえて、ソウルからの叫びを私たちに投げつけた。

隆二郎の自筆原稿が清書されていないので歌詞の順序がよく判らないので、
原稿内の順序に準じた。

S53.11.19.

バラード = ソウルからの叫び =

詩.曲 リンダ・33

19
ソウルから8年以前
1970年 11月 13日

ソウル市内の平野市場の前で
一人の青年がガソリンを飲んで
焚身自殺した事に始まる

Dm A7
A7 Dm
Dm A2
A7 Dm
A2 Dm

ここで働いているみんな様方も
これは海のおいの事だと
知らぬが心の安らぎを
働いてもらうと困るんだ
なぜなら俺達の事も分かってるんだ

彼の名は全泰壹
平野市場の中にある
被服工場の裁断工として
働いていた23才の若者
その彼が炎の中で死んだ

「別にさげすみと言いたくないから
彼の叫びが今俺達の
着ている服から聞こえないか
言えましてほしいんだ」
彼の名を見てごらん MADE IN KORIA と書
てあるだろう

彼は自分とよく仲間達の
安い金とかわる労働条件で
こきつかわれている現実をみて
仲間に叫びかけ立ち上がり
ストライキをやり始めた

「これは安いと買った服が
平野市場の若者達の
命とあせと血のしみなんだ」
ものであるのに気付いたら
少しはくみか見せるだろう

「たけずくにかけた
あまり速に追い追いつかれ
血みどろの中で彼は見た
あんなに奴等の本当の顔
をみて彼は決意した命をかけた401を

誰かが手を離していった
団結なんてしりぞいて
組合なんてたやみになって
それで自由がほしいんだって
おなじに11月19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日

炎の中で彼は叫ぶ
「俺が基準を打ちと
労働時間を短く日給は休みにせよと
もくずれ行くその中で
私の死をわらにするなと

全泰壹は示してくれた
労働者の団結の意義と
組合の望はどうかを
彼の叫びは去海嶺を越え
労働者の心の中につきまする



たった一人の人間だけで
資本 権力とは斗いきれぬ
働く者がこの仲間達を
学ぶ者がこの友達を
彼らの叫びを聞き取らねばならぬ

全泰壹の死にエムダにはほいと
確めぬ食おうと今ここで
すべての不当逮捕者達が帰る物日まで
斗い続ける 確認をしようよ
生まれる俺達の責任として

LAST

炎に包れ全泰壹が死んで
奴は毎年の日目が流れる
彼を包んだ炎は今
玄海灘を越えて

~~大々の心の中に入り 押し縮めた~~
L.A.の心の中に入り 押し縮めた

黄土の国中にひびく
海を渡る 舟は 船の心の中を 走らねばならぬ

今の 韓国。民権に闘争の 光を
もたらさる 舟、舟。

一人の舟を 舟に 舟を

舟に 舟を 舟に 舟を 舟を

舟に 舟を

舟に

小林隆二郎 Memorial

「旅の移りに」

CD とリーフレット



SONG FOR THE PEOPLE
BY THE PEOPLE

CD

D i s k 1	1999 年まで
D i s k 2	風来とのコラボ集 (風来ライブとリハーサルから)
D i s k 3	日本国内ライブから
D i s k 4	臺灣から
D i s k 5	『ばとこいあ神戸』から I
D i s k 6	『ばとこいあ神戸』から II
D i s k 7 (Bonus Disk)	『ばとこいあ神戸』からの語り集

プラス2006年から2014年までの映像を取めたDVDを2枚つけます。

データディスクのため、パソコンで再生して下さい。

カンパ 1セット ¥3,000 (送料 ¥1,000)

リーフレット (2015年改訂版)

全136ページ

1999年秋の「新訂版」に2000年以降の唄の詩や、『ばとこいあ 通信』から抜粋したエッセイを付けました。

カンパ 1冊 ¥1,000 (送料 ¥500)

CDとリーフレット一緒の場合、送料は¥1,000です。

『人はみな旅人』 CD

1枚 500円

原稿を下さい。

次の『ばとこいあ神戸』の開催の前月末までに事務局へ届けてください。僕の主張だけしか無くなってしまいますので・・・。

ほんまに言いたいこと無い・・・？

よろしくね！

編集後記

脳梗塞のため、10/11までに執筆できませんでした。

(千)